

県中農林 ニュース

ひとつ、ひとつ、実現するふくしま

第39号

令和7年3月24日

○特集 P1～2

○おいしい6次化商品 P15

○農林関係の動き P2～14

○お知らせ P15～16

お問合せはこちら

【編集・発行】

福島県県中農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒963-8540

郡山市麓山一丁目1番1号

ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36220a>

TEL 024-935-1510 FAX 024-935-1314



特集

豊かなむらづくり顕彰事業受賞者をご紹介します

【企画部】

県では「豊かなむらづくり顕彰事業」として、集落等におけるむらづくり活動や農業生産活動に顕著な業績を収めている団体等を表彰しています。

43回目となる今回は、1月21日（火）、福島市（杉妻会館）において表彰式が行われ、管内からは、むらづくり部門で田村市の「堀越集落」、農業生産部門で天栄村の「天栄長ネギ生産組合」が受賞しました。「堀越集落」は来年度開催される「豊かなむらづくり全国顕彰事業」にも推薦されます。今回の受賞を機に、各団体の今後ますますの御活躍が期待されます。

..... 堀越集落

担い手不足や遊休農地などの解消に向けて、公益部門の一般社団法人ほりこし創生会、営利部門の株式会社ほりこしフォーライフを設立し、両法人による「2階建て方式」で集落営農に取り組んでいます。

農家以外の住民も参加するほりこし創生会は、地区の活性化などを担っています。会員共同で地域の環境整備のほか、農地の利用調整や農機具の貸し出しなどに取り組んでいます。農業生産の実働部隊となるほりこしフォーライフは、ほりこし創生会による農地の利用調整後、借り手のいない農地で水稲や大豆の栽培を手がけるほか、ほりこし創生会から受託する形で水稲の育苗や牧草栽培、農産物の加工などを行っています。

こうした活動により、地域農業の発展と地域活性化に大きく貢献しています。



【左から佐藤松美^{まつみ}氏、知事、福島民友新聞社長、佐藤正典^{まさのり}氏】

●●●●●天栄長ネギ生産組合●●●●●

「天栄長ネギ」のブランド化に平成15年から取り組み、遊休農地や団地化により再生された農地を活用して、「夏秋ネギ」「赤ネギ」「鍋ネギ」を手がけています。「天栄長ネギ」は糖度が高く、柔らかい食感のネギとして認知されています。

土作りにも力を入れており、村内の競走馬調教施設の馬糞堆肥を使用し、環境に配慮した地域資源循環型の農業を進めています。

村内道の駅と連携して、「長ネギソフトクリーム」「味噌汁の具」といった6次化商品も開発し、販売量の拡大はもとより、村を代表するブランド農産物として、天栄村のイメージアップにも貢献しています。

【左から、^{おかべしんいち}岡部伸一氏、^{こばりよしひろ}小針良広氏、知事、
福島民友新聞社長、^{かねこゆきお}兼子之夫氏】



ICT 活用工事現場研修会を実施しました

【農村整備部】

ICT 活用工事は、UAV（無人航空機）3次元起工測量による3次元設計データをICT建設機械に取り組んで施工する工法であり、高齢化や労働力不足が進行する中、少ない人数での施工が可能となるなど、今後、利活用が期待されている最新技術です。

県中農林事務所の発注工事においてもほ場整備工事を中心にICT活用工事を実施しており、11月6日（水）、小野町の農地中間管理機構関連農地整備事業「^{いいとよかみ}飯豊上地区」のほ場整備工事（受注者：（株）福田建設）の現場において、当所の技術職員と小野町役場職員の参加による現場研修会を開催し、本工事で使用する機械メーカーのコマツカスタマーサポート（株）、コマツ福島（株）からICTブルドーザによる施工方法やデータの管理方法について学びました。



【研修会の様子】

工事安全パトロールを実施しました

【総務部、農村整備部、森林林業部】

11月8日（金）、小野町の飯豊上地区^{いいとよかみ}、浮金第二地区^{うきがね}及び田村市の北移地区^{きたうつし}のほ場整備工事現場と水ノ木羽山線^{みずのきはやま}の林道工事現場において、発注者と受注者が合同で行う「管内工事安全パトロール」を実施しました。

郡山労働基準監督署、発注者の県中農林事務所及び受注者の建設業者の計30名が参加し、工事担当者から工事概要の説明を受けた後、工事現場の安全管理について各自点検を行いました。

点検後の検討会では、参加者全員で良好点と改善点について確認し合い、今後の安全管理に活かすとともに、年度末に向けて労働災害防止に一層努めていくこととしました。

【点検後の検討会状況】



【現場パトロール状況（浮金第二地区）】



「ひとつ、ひとつ、実現する郡山農業塾」を開催しました 【農業振興普及部】

農業の担い手の確保・育成に向け、新規就農者が基礎的な知識や技術を習得する研修会「郡山農業塾」を開催しました。

県農業総合センターを会場として、11月8日（金）に福島大学^{みやま}深山教授による野菜・花き等の栽培技術、12月13日（金）にJA全農福島^{みうら}三浦技術常任参与による土壌診断に基づいた土づくり、2月4日（火）に郡山市指導農業士3名による経営計画の立て方について講義等を行い、参加した新規就農者は熱心に受講し積極的に質問していました。

今後も、就農者の農業技術と経営力向上のために、「郡山農業塾」を開催してまいります。



【講義で質問する受講生】



【経営計画の意見交換】

令和6年度食品表示法研修会を開催しました

【企画部】

11月14日（木）、福島県環境創造センター(コミュタン福島)において、研修会を開催しました。

この研修会は農産物の加工グループや直売所関係者、直販を行う農業者などを対象に、食品表示について理解を深めること目的として毎年開催しており、県中農林事務所から名称・原材料名・原産地表示等の「品質事項」について、県中保健福祉事務所からアレルギー・賞味期限等の「衛生事項」及び栄養成分表示等の「保健事項」について、それぞれ説明しました。



【研修会の様子】

受講者の皆様が加工・販売を行うにあたっての一助となりますことを期待いたします。

須賀川市内の幼保施設で木育出前講座を実施しました

【森林林業部】

須賀川市では、次世代を担う子どもたちに森林・林業や木材に興味を持ってもらうため、森や木への親しみを育む木育を推進しており、市からの依頼により幼保施設を対象とした木育出前講座を実施しました。紙芝居の読み聞かせの後、子どもたちは県産ケヤキを使用したオリジナルカスタネット作りに挑戦。ゴシゴシ磨いたり、匂いを嗅いだり、叩いては「いい音」と大はしゃぎで、手づくりの楽しい時間を過ごしました。



【県産ケヤキのカスタネット作り】



【作ったカスタネットで演奏会】

県中地方フラワーネットワーク「花き研修会」を開催しました

【農業振興普及部】

11月19日（火）、株式会社フィオレピアこおりやまデポにおいて県中地方フラワーネットワークの「花き研修会」を開催し、花き生産者、花き利用施設、生花店、関係機関から26名が参加しました。

量販店向け花束加工の現場を見学した後、代表取締役の鈴木隆則氏すずきたかのりから「量販店向け加工業者から見た花の流通について」と題し、講演をいただきました。

「量販店からは季節を問わず同じ種類の花の注文が多いため、産地を選んで年間を通して同一価格で販売している。また、最近はドラッグストアでの花束も増加し、ここでは30～40代の女性をターゲットに洋花比率が高い。ともに、カジュアルフラワーとして長さは生花店より短く60cm未満である」との話を聞き、新しい花きの流通を学びました。



【機械と手作業による花束加工】



【鈴木隆則代表取締役による講演】

高病原性鳥インフルエンザ対策のための「埋却演習」を実施しました

【農業振興普及部】

県中農林事務所では、毎年、秋以降に発生が懸念される高病原性鳥インフルエンザに備えるため、県中地方特定家畜伝染病防疫演習を実施し、防護服の着用、発生農場での捕鳥から殺処分、消毒ポイントでの車両消毒等の防疫対策を確認してきました。

更に今年度は、埋却予定地の一部を借用して、各市町村や建設業協会等、関係者約50名を参集し、家きんを処分するための埋却作業を想定した演習を11月20日（水）に実施しました。当日は、実際に大型重機を用いて幅6m、深さ4mの埋却溝を掘り、石灰散布からシート敷設、殺処分した家きんが入ったフレコンバックの運搬・搬入の作業をそれぞれの担当者が実際に行い、有事の際の埋却作業を確認しました。

今後も、防疫演習と併せて埋却演習を実施するなど、特定家畜伝染病の発生時には迅速かつ的確な防疫対策を展開できるよう体制を強化してまいります。



【大型重機による消石灰散布】

第21回農業農村整備事業成果発表会

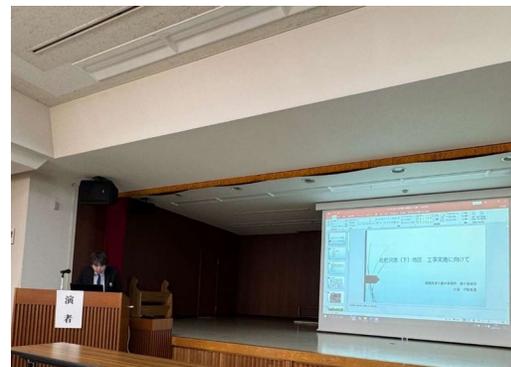
【農村整備部】

11月21日（木）、福島県土地改良会館において、農業農村整備事業の情報共有や知識習得を目的とする、農業農村整備事業成果発表会が開催されました。

県中農林事務所からは、ため池の堤体上にJR水郡線が通っている枇把沢池びわさわいけの事例を発表しました。

枇把沢池の堤体は漏水があり危険な状態で、補修工事が必要ですが、JR水郡線の安全を確保しつつ堤体だけを直すことは困難であるため、ため池堤体とJR水郡線を分離する計画としたことや、新堤体の土質に対する課題などを取り上げました。

今後、これら課題を整理し解決を図り、安全安心なため池を整備してまいります。



【成果発表会の様子】

東北農政局震災復興室による田村市取材

【農村整備部】

11月22日（金）、東北農政局震災復興室の取材がありました。取材の対象は、原子力事故被災12市町村の田村市で行っている福島再生加速化交付金を活用してほ場整備工事を実施している7地区です。

これらの地区は、急傾斜地や用水の確保が厳しいなどの中山間地特有の現場条件があり、環境への配慮（ビオトープ）と用水の確保を目的とした調整池の設置や、段差のある水田では、長くて大きな法面となる畦畔けいはんの維持管理を軽減するために小段を設置するなど、創意工夫を行いながら担い手農家が営農しやすいほ場を整備しており、復興が着実に進んでいることを幅広くPRしました。

今後も農業の速やかな復興・再生に努めてまいります。



【環境への配慮（ビオトープ）と用水を確保するための調整池】



【維持管理を軽減するため小段を設置した畦畔】

令和6年度県中地方園芸振興セミナーを開催しました

【農業振興普及部】

11月27日（水）、県中地方園芸振興セミナーを開催し、県中地方の園芸品目栽培者や関係機関・団体を併せて98名が参加しました。

環境測定技術に強みを持つ「株式会社誠和^{せいわ}」を講師に迎え、「植物の生理生態に基づいた高温対策について」と題して講演をいただきました。近年、夏季の高温の影響でトマトなどの果菜類の生産量が減少しており、その対策が喫緊の課題となっています。塗布型の遮熱資材をビニールハウスの屋根に吹き付ける高温対策などが紹介され、参加者は熱心に聴講していました。今後とも、産地の課題解決に資する情報提供を通じて、県中地方の園芸振興を図ってまいります。



【セミナーの様子】

須賀川・石川地方ゆうやけベリー栽培研修会を開催しました

【須賀川農業普及所】

11月28日（木）、須賀川・石川地方「ゆうやけベリー」栽培研修会を開催しました。県農業総合センター野菜科^{なりた}成田副主任研究員より栽培のポイントを学び、福島市生産者^{たかはしまさゆき}高橋正到氏、伊達市生産者^{すだのりゆき}須田紀之氏、須賀川市生産者^{おざわみつひろ}小沢充博氏からは生産や販売の事例紹介をしていただきました。その後、（有）横田農園で現地研修を行いました。県内の生産者・関係機関など50名程度が参加し、「生産者により様々な考え方があり、とても勉強になった」「県を代表する品種になって欲しい！」などの感想がありました。



【（合）おざわ農園代表社員
小沢充博氏発表の様子】



【（有）横田農園現地研修の様子】

県中地方就農相談会「ふくしま農業人フェア in 郡山」を開催しました 【農業振興普及部】

12月1日（日）、ビッグパレットふくしま（郡山市）において県中地方就農相談会を開催しました。今年度は、農機具の展示や託児可能なキッズコーナーを新たに設け、県内の農業法人、市町村・団体、研修機関、支援団体など40ブースが出展しました。

当日は、自営就農や雇用就農を目指す方、農業に関心ある方など145名が来場し、各ブースを回りながら熱心に相談されていました。

県中農林事務所では、就農を希望する方からの相談を随時受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。



【当日の様子】



グリーン・ツーリズム交流会及び視察研修会を開催しました 【企画部】

県中地方グリーン・ツーリズムネットワーク（事務局：県中農林事務所）では、構成員の連携強化や実践力向上等を目的として、交流会（12月4日（水））及び視察研修会（1月31日（金））を開催しました。

交流会では「グリーン・ツーリズムへの参加者を増やすための戦略」をテーマに掲げ、参加者17名が情報発信の専門家による講演とグループワークを通して、効果的な情報発信の方策等について理解を深めました。

視察研修会では参加者15名が猪苗代町を訪問し、地域づくりや農業体験受入に積極的に取り組んでいる見^み祢^ね地区で講話を聞き、夷^{えびすだ}田地区で雪下キャベツ収穫体験を行いました。

グリーン・ツーリズムを通して、農山村の魅力が更に発信され、地域のファンが増えることが期待されます。



【交流会の様子】



【視察研修会の様子】

田んぼの学校収穫祭を行いました

【農村整備部】

12月10日（火）、郡山市立西田学園5年生児童35名及び3年生児童34名が収穫祭を行いました。

児童は「ふくしまの農育」推進事業により、自分たちで田植えから収穫までを体験したお米でおにぎりを作り、約1年間の成果を味わいました。

児童からは「いつも食べているお米より美味しく感じた」「お米はたくさんの工夫や努力をして育てるので、大切にしなければならなかった」となどの感想を聞くことができました。地元農家の皆様とともに一連の農作業を体験することで、農業や食について学ぶ有意義な活動となりました。



【おにぎりを味わう児童】

県中地方・地域産業6次化ネットワーク講演会を開催しました

【企画部】

12月11日（水）、6次化に必要な商品ブランディングと商品陳列・売り口上のコツを学ぶため、県中地方・地域産業6次化ネットワーク講演会を開催しました。

（株）ニックファンズ代表取締役の齋藤^{ひさし}久志さんから「魅力ある6次化商品をつくるために」を、AIZU-YA-JAPAN代表池添^{いけぞえひろこ}寛子さん、吉川^{よしかわひろゆき}弘之さんから「県外販売をちょっとだけ楽しくさせるコツ」をテーマに講演いただき、商品のブランディングの戦略や、商品陳列・売り口上のコツについて学びました。

参加者からは、「販売戦略の大切さがわかりました」「販売など具体的な話が出来て良かったです」との声が聞かれました。



【当日の様子】

園芸品目土作り研修会を開催しました

【須賀川農業普及所】

12月11日（水）、須賀川市文化センターで、須賀川・石川地区の園芸品目生産者等を対象に、「園芸品目土作り研修会」を開催しました。

研修会では、東京農業大学名誉教授の^{ごとういつお}後藤逸男氏を講師に迎え、「園芸のための健康な土づくり」と題して、土壌診断結果に基づく施肥管理とともに、塩類集積や土壌病害が発生しに

くく、作物の安定生産が可能な土づくりについて講演をいただきました。当日は、生産者・関係機関など約100名が参加し、質問時には積極的に手が挙がっていました。



【質問する生産者】



【講演する後藤逸男氏】

通い農業支援システムワークショップを開催しました

【須賀川農業普及所】

12月12（木）、13日（金）、「通い農業支援システム」のワークショップを開催しました。

「通い農業支援システム」は、生産者が安価に製作でき、園地の温湿度・土壌水分といった環境データをスマートフォンでどこからでも確認できるIoT技術です。東北農業研究センター主任研究員の山下氏を講師として、システムについての概要と作り方を指導していただきました。各生産者が製作したシステムはそれぞれの園地に導入され、3月頃からの凍霜害対策等に役立てられる予定です。

今後も管内のシステムの導入・利用を推進していきます。



【組み立て作業中の生産者】



【完成したシステム】

令和6年度経営管理能力向上研修を開催しました

【田村農業普及所】

田村地域では、関係機関・団体が一体となり「田村地域就農支援プロジェクト」として新規就農者の確保・育成に取り組んでおり、県中農林事務所と共催で認定農業者や新規就農者、就農研修生等の経営管理能力向上を目的とした講座を開催しています。

12月4日（水）、13日（金）に税理士、社会保険労務士を講師として「税務と青色申告の概要とメリット」と、昨年の受講者や認定農業者等から要望の多かった「労務管理の基礎と農福連携」をテーマに実施しました。12名の参加者は積極的に質問し、自身の経営改善に努めていました。今後も対象者の要望を踏まえ講座を開催していきます。



【研修の様子】

多面的機能支払交付金事業の中間指導と優良組織の表彰について【農村整備部】

多面的機能支払交付金事業は、農村の機能（農村の景観、かんがい用水による生態系の維持、水源涵養、田んぼの防災機能等）を保持し、持続的な農村の発展を目的として、農家と非農家が協力して共同活動を行い、その活動費用に対し助成を行う制度です。

県中農林事務所では、市町村や福島県多面的機能支払推進協議会と連携し、各活動組織の活動状況や出納簿、領収書等の確認のほか、活動時の事故防止対策等を確認し、予算の適切な活用や共同活動の留意点について中間指導を行っています。

また、福島県多面的機能支払推進協議会では、優良な活動組織に対し表彰を行っており、令和6年度は、令和元年台風19号水害の被災地であり阿武隈川上流遊水池群整備事業の対象になるなど、難しい問題を抱えながらも地域全体で生産性の向上に資する活動に取り組んでいる鏡石町の成田環境保全会が、優秀賞（福島民報社賞）を受賞されました。



【成田環境保全会の優秀賞（福島民報社賞）受賞】



【共同（長寿命化）活動 [用水路] 成田地区】

【事業概要】 県中管内 12 市町村、管内多面組織数 372 組織
交付金事業費（R6 年度管内 768,593 千円）

田村地方農業士協議会研修会が開催されました

【田村農業普及所】

田村地方農業士協議会では、幅広い視野と知識を深めることを目的に、毎年、先進地を視察する研修会を開催しています。今年度は、1月15日（水）～16日（木）の日程で、茨城県（いなしきぐんあみまち稲敷郡阿見町、みほむら稲敷郡美浦村、なめがたし行方市）のヤンマーアグリソリューションセンター関東、スガノ農機（株）、らぼっぱなめがたファーマーズヴィレッジの3施設を見学し、ICTや土作り、6次産業化など様々な知見を得ることができました。参加者からは、「今後の生産活動や農業経営に活かそうだ」との感想が寄せられ、営農意欲が増進されたことが伺えました。



【スガノ農機（株）でお話しを聞く様子】



【ヤンマーアグリソリューションセンター関東での集合写真】

郡山環境保全農業研究会が「みんなでチャレンジ！環境保全型農業コンテスト2024」で優秀賞を受賞しました

【農業振興普及部】

1月17日（金）、福島市子どもの夢を育む施設こむこむにおいて、「みんなでチャレンジ！環境保全型農業大会2024」が開催され、郡山環境保全農業研究会が優秀賞を受賞し、表彰されました。

郡山環境保全農業研究会は、「白鳥なかむらの中村さん」として知られている中村和夫氏かずおを中心に平成20年に結成され、毎年、先進地視察研修を実施して会員の栽培技術向上を図っているほか、有機農産物の理解促進と販路拡大、消費者や学生との交流などの活動を行っています。

今後も、郡山地域の環境にやさしい農業の先駆者として、活躍が期待されます。

【石澤いしざわ会長による事例発表の様子】



【受賞の様子】



林業研究グループ等活動発表会で最優秀賞を受賞しました

【森林林業部】

林業研究グループとは、林業活動をはじめ、広く林業や森林についての普及体験活動を実施している団体です。

1月30日（木）、林業研究センターにおいて令和6年度林業研究グループ等活動発表会が開催され、参加した県内6団体から特色ある活動について発表がありました。

県中管内からは石川町のチーム・ゴールドの代表である三森孝^{みもりたか}ひろさんが「未来につなぐ森林経営」と題して、これまでの活動内容や成果を発表し、構成員自らが複層林施業を実施していることに加え、後継者育成に力を入れていることが高く評価され、最優秀賞に輝くとともに、令和7年度の北海道・東北ブロック林業グループコンクールの福島県代表に選ばれました。

チーム・ゴールドの更なる御活躍と地域林業の活性化が期待されます。



【最優秀賞を受賞された三森さん】

林業の普及指導に関する活動成果で表彰を受けました

【森林林業部】

県では、林業普及指導員の情報共有や技術力の向上を目的に各農林事務所の普及指導内容を発表する「林業普及指導員全体研修会」を開催しています。

令和6年度の研修会は、1月31日（金）に郡山市の林業研究センターにおいて開催され、県中農林事務所からは、森林林業部の三瓶^{さんびん}技師が、「森林整備事業におけるGNSS測定の普及に向けた取組について」と題して、ハンディGPSによる当測定の検証や普及指導内容について発表し、最優秀賞を受賞しました。

今後も、森林林業の課題解決や発展に向けて、普及指導に努めてまいります。



【発表会の様子】

新規採用職員紹介 ～1年を振り返って～

企画部

主事 たてかわ まあや
館川 真綾



慣れないことばかりで試行錯誤を重ねる毎日ですが、少しずつできることが増えているのを実感しています。これからも様々なことに挑戦し、スキルアップしていけるよう頑張ります。写真は第1回「おいしいふくしまいただきます！」キャンペーンに参加したときです。

森林林業部

技師 かんげ まさゆき
菅家 誠之



木材を担当しています。わからないことを上司や先輩方に助けてもらい、日々学びながら業務に当たっています。まだ知識・経験が未熟ではありますが、一日でも早く一人前になれるようこれからも精進していきたいと思えます。

須賀川農業普及所

技師 こあらい ひかる
小荒井 輝



大学進学で6年離れた福島県に戻って来られる喜びと、これからの仕事への不安を抱いて入庁しました。この1年は仕事も、大変なことも多かったです。多くの方々と関わりながらたくさん勉強させていただきました。精一杯頑張りますので、これからもよろしくお願いします！

須賀川農業普及所

技師 ほんま だいすけ
本間 大介



私は新潟県出身で、昨年4月に福島県に参りました。まだまだ勉強することがたくさんあるので、皆様との関わりの中で成長していきたいです。皆様の頼りになる県職員を目指します。これからどうぞよろしくお願いします！写真は資料説明デビュー戦の様子です。

おいしい6次化商品

「ふくしま満天堂グランプリ 2024 で大野農園(株)がグランプリを受賞しました」

県では、平成29年度のふくしま満天堂事業開始時より、県産の農林水産資源を活用した6次化商品を表彰する「ふくしま満天堂グランプリ」を開催しています。

8回目の開催となる今回の満天堂グランプリ2024は、1月20日(月)に福島市で審査結果が発表され、県中地域の以下の3商品が受賞しました。

「グランプリ・プレミアム2024」



「ももモナカ」
おおの
大野農園株式会社 (石川町)

「プレミアム2024」



「山葡萄^{ぶどう}玉ようかん」
合同会社あすかエコテック
(石川町)



「うふれっと(福島スイーツ)」
株式会社お菓子のさかい
(石川町)

おらせ

山火事に注意しましょう

【森林林業部】

県では、「ふるさとの 山を守ろう 火の手から」の標語のもと、3月1日から7日まで全国で実施される令和7年全国山火事予防運動をはじめ、春季(2月10日~5月30日)と秋季(10月20日~12月20日)の期間中に、山火事予防の啓発活動を実施しています。

入山や山での作業をするときは、乾燥が続く日や強風時には特に警戒し、以下の項目に注意していただきますようお願いします。

- ・ 枯れ草の近くでたき火をしない。
- ・ 乾燥注意報や強風時は火の取り扱いに注意し、たき火を避ける。
- ・ 火を使っている時はその場を離れず、使用後は必ず消火する。
- ・ たばこの吸いながらや花火、炭、焼却灰は消火後に適切に処分する。
- ・ 火遊びをしない、させない。

2/10・5/30(山火事防止強化期間) 10/20・12/20



【山火事注意チラシ】

これから春に向けて山菜の季節になりますが、県中地域産のきのこ及び山菜については、緊急時モニタリング検査の結果、食品衛生法の基準値（100ベクレル/kg）を上回る放射性物質が検出され、国から出荷制限等が指示されていますので、出荷しないでください。

（令和7年1月31日現在）

出荷制限品目	該当市町村
野生きのこ	郡山市、須賀川市、田村市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町 ※管内全市町村
こしあぶら	郡山市、須賀川市、田村市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、三春町、小野町 ※管内全市町村
原木しいたけ（露地）	田村市（福島第一原子力発電所から20km圏内の地域に限る）
ぜんまい	郡山市、須賀川市、田村市
うど（野生）	須賀川市
たらのめ（野生）	郡山市、須賀川市、田村市、鏡石町、古殿町
くさそてつ（こごみ）	郡山市、三春町
たけのこ	郡山市、須賀川市、田村市、天栄村、三春町

※出荷制限品目等については最新の情報を確認してください。

※出荷制限品目等は加工食品の原料にも使用できません。

県では、農林水産物の安全性を確認するため、市場や農産物直売所に出荷される「きのこ」、「山菜類（野生）、わらびの場合は栽培も含む」、「樹実類（あけび、くるみ、とちのみ）」について、事前にモニタリング検査を実施しています。市場等へ出荷する場合は、毎年度、事前にモニタリング検査を受けて安全性を確認する必要がありますので、未検査のものを出荷することがないようにお願いします。モニタリング検査には期間を要しますので、発生初期にご相談ください。

相談窓口：県中農林事務所 森林林業部 林業課 電話 024-935-1367